

SPES(ソフトウェアプロセスエンジニアリングシンポジウム) プレゼンテーション作成のガイドライン

2010年2月7日

SPES 企画 WG

SPES では、発表内容を、論文ではなく、プレゼンテーションとして募集しています。このガイドラインは、SPES のプレゼンテーションを作成・改善し、プレゼンテーションとしての魅力を高めるための指針を示します。

1. プレゼンテーションの目的

SPES では、「現場による」「現場のための」シンポジウムを理念としています。現場での創意工夫や経験を共有することにより、互いに、現場の改善を図ることを目的としています。そのため、プレゼンテーションは、現場における創意工夫や経験を互いに理解、共有できることを目的として下さい。取り組んだ技術や事例は、その良さが分かるように説明に工夫して下さい。

一方、プレゼンテーションを作成することは、これまでの実践を振り返り、次につなげる機会になります。発表者にとってもプレゼンテーションの作成はメリットがあります。

SPES では、優れたプレゼンテーションにベストプレゼンテーション賞を贈呈しています。あなたの素晴らしいプレゼンテーションをお待ちしています。

2. プレゼンテーションの内容

プレゼンテーションの内容を明確にし、聴衆に理解を促すように留意してください。一般に、プレゼンテーションの内容には、次のような項目を含めると良いでしょう。限られた時間で効果的にプレゼンテーションを行うには、各項目を適切な枚数のプレゼンテーションへ配分する必要があります。内容の重要性に留意し、プレゼンテーションにメリハリをつけると分かりやすくなります。

- (1) カバー(表紙): 題名, 発表者の氏名と所属
- (2) 目次
- (3) 課題とその背景(プロセス, 組織, 人/人材などの現状)
- (4) アプローチ: 問題解決のための着眼点
- (5) 解決方法: 工夫した内容
- (6) 解決方法の適用: 適用した開発, あるいは, プロジェクトの概要, 適用プロセス, 適用結果
- (7) 評価, 経験からの知見: 適用した結果の評価, あるいは, 得られた知見など
- (8) 今後の課題: 評価に基づき, 今後, 取り組むべき課題
- (9) まとめ

3. 内容に関するポイント

- (1) 有用性: 開発, あるいは, 適用した技術がどのように役立ったか示して下さい。また, 現場で適用する中で得られた知見, 工夫, 乗り越えるべき課題, 苦労した点など, 他の現場でも役立つであろうと思われる事項を示して下さい。
- (2) 新規性: 同一内容のプレゼンテーションがすでに発表されていないか, あるいは, 既発表の内容に対して, 創意工夫や実践などの点で違いがあるか, 確認して下さい。
- (3) 客観性: 内容は現場の視点でまとめることを期待しますが, 聴衆に理解できるためには, 客観的な表現が重要です。適用結果などは, できるだけ定量的なデータを示したり, 現場の意見を集めるなどの, 根拠を示すよう工夫して下さい。参考とした文献やデータがあれば, 明記して下さい。過去のシンポジウムの事例を参照することも, 客観性を高める助けになります。

SPES プレゼンテーション作成のガイドライン

- (4) 明確性: 1枚のプレゼンテーションで示すべき主張点や論点が明確になるように配慮下さい。1枚のプレゼンテーションに多くの主張点が盛り込まれると、分かりにくくなります。
- (5) 公正性: うまくいった点だけでなく、上手くいかなかった点も重要です。データや記述は、公正(正しい)であることを心がけて下さい。
- (6) 論理性: 経験を他の人に伝えるには、論理的な説明が必要です。思い込みにならないよう、工夫して下さい。
- (7) つながりの良さ: 各プレゼンテーションの内容は、前後の内容とうまくつながっているか、説明の流れに配慮して下さい。
- (8) 用語: 用語が、プロジェクトや社内で固有に用いられているものは、読み手に理解できない可能性がありますので、一般に受け入れられているか、確認して下さい。英字の略記で略語として一般に使われていない場合は、初めて使う箇所で、脚注などにフルスペルを示して下さい。

4. プレゼンテーションの量

プレゼンテーションの枚数が過大であると、聴衆が理解できなくなる恐れがあります。プレゼンテーション1枚に1分以上を見込んで下さい。

5. プレゼンテーションの表現方法

プレゼンテーションの作成にあたっては、見やすく、分かりやすいことが重要です。この観点から、表現の基本的な指針を示します。詳しくは、下記の参考文献などを参照下さい。

- (1) 文字の大きさとフォント: 18ポイント以上、フォントは、日本語はMSPゴシックなどの太字、英数字は、Arialなどの字の線幅が均等で太いもの(本ガイドラインの見出しのフォント)を使用して下さい。
- (2) 文字色と背景: 白地に近い背景で黒、あるいは、濃い色の文字を使用して下さい。濃い背景に白色の文字を使うこともありますが、プレゼンテーションが全体として暗くなりますので、ご留意下さい。
- (3) 文字数: 1枚のプレゼンテーションに文字数が多いと、見づらくなります。文字はできるだけ少なく、表現を体言止めにして文字数を減らす工夫をしましょう。
- (4) 図表の活用: できるだけ図表を用いて、分かりやすくなるよう、工夫しましょう。

6. 表現方法に関するポイント

- (1) 分かり易さ: プレゼンテーションは、見て、直観的に分かることが求められます。
- (2) 明確さ: 誤解を避けるよう、曖昧さがないように、表現や字句に留意して下さい。
- (3) 見やすさ: 会場の後方からでも見えるよう、文字はできるだけ大きくするなど、配慮下さい。

7. 法令順守と倫理基準

- (1) 法令順守: プレゼンテーションは、SPES論文集として、電子媒体、もしくは、紙で参加者に配布します。作成にあたって、知的財産権などの法令の順守に留意して下さい。
- (2) 倫理基準: プレゼンテーションの内容は、宣伝行為や他者/他社を非難する内容であってはなりません。

8. 参考文献

[1] 藤沢 晃治, (著) 「分かりやすい説明」の技術 最強のプレゼンテーション15のルール, ブルーバックス, Vol. 1387, 講談社, 2002.